

# ASSET MANAGEMENT

## アセットマネジメント事業



グローバルネットワークの拡充による、  
ベンチャー投資の積極化と海外金融サービス事業の強化

### 主要企業

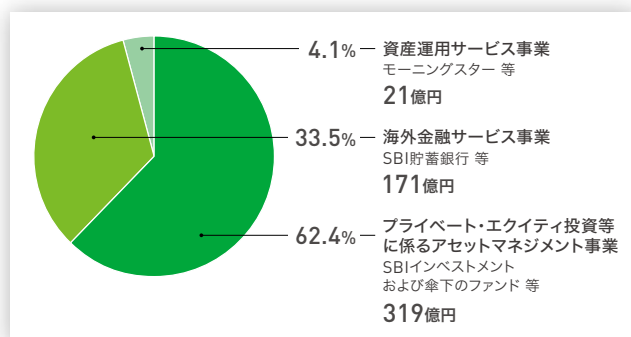
中間持株会社：SBIキャピタルマネジメント

|                                               |                            |
|-----------------------------------------------|----------------------------|
| SBIインベストメント                                   | SBI Ventures Malaysia      |
| SBI FinTech Incubation                        | SBI貯蓄銀行                    |
| SBI VEN CAPITAL                               | SBI Investment KOREA       |
| SBI Hong Kong Holdings                        | SBI Royal Securities       |
| 思佰益(中国)投資有限公司                                 | SBI Thai Online Securities |
| SBI & TH (Beijing) Venture Capital Management | SBI Bank                   |
|                                               | BNI SEKURITAS              |

中間持株会社：SBIグローバルアセットマネジメント

|                         |                   |
|-------------------------|-------------------|
| モーニングスター                | SBI地方創生アセットマネジメント |
| SBIアセットマネジメント           | SBIエナジー           |
| Carret Asset Management | SBIエステートファイナンス    |
| SBIオルタナティブ・インベストメンツ     |                   |
| SBIボンド・インベストメント・マネジメント  |                   |

2019年3月期における  
連結税引前利益の事業分野別内訳 (IFRS)



### 2019年3月期の主な取り組み・今後の重点戦略

#### ➤ ベンチャーキャピタル事業

- 2015年12月に設立したFintechファンドは約250億円の投資を決定しており、投資フェーズは終了
- 2018年1月に設立した「SBI AI&Blockchainファンド」は有望ベンチャー企業への投資を加速
- 2016年3月期以降の累計で2,400億円超の投資を実施、中長期での利益貢献を見込む
- SBI地域事業承継投資を設立し、事業承継ファンドの設立に向けファンドレイズを開始

#### ➤ 海外金融サービス事業

- 韓国のSBI貯蓄銀行は総資産、当期純利益ともに業界No.1に
- ロシアのSBI Bankは完全子会社化以降、順調に業容を拡大
- 海外における事業拡大に向け、ベルリン駐在員事務所、フィリピン駐在委員事務所を新たに開設

#### ➤ 資産運用サービス事業

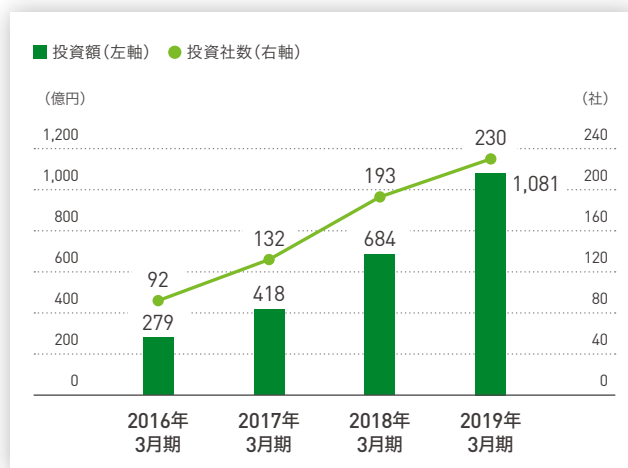
- SBIボンド・インベストメント・マネジメントは通期黒字化を達成
- SBIグループの運用資産は投資信託等を中心に急増しており、2018年9月に1兆円を突破
- モーニングスターは東証ジャスダック市場から東証1部市場への市場変更を計画

## ファンド設立等を通じた積極的なベンチャー投資

SBIグループは2016年3月期以降、フィンテック分野の有望ベンチャー企業への投資を目的にしたFintechファンド(2015年12月設立、出資約束金額300億円)や、その後継となるAIやブロックチェーン、更にはこれら技術と関連の深いIoT、ロボティクス、シェアリングエコノミーといった分野のベンチャー企業を対象とするSBI AI&Blockchainファンド(2018年1月設立、出資約束金総額600億円)を通じ、新技術によって急成長を遂げる領域への投資を積極化してきました。これらのファンド等を通じた投資額は当期までの累計で2,400億円以上に達しており、先行するFintechファンドの投資先からは既にIPO(新規株式公開)を果たす企業が生まれています。当社グループ全体の投資先としては、2018年3月期の13社に続き、2019年3月期に20社のIPO・M&Aを実現しました。

またSBIグループは、ベンチャー投資を通じて大企業とベンチャー企業をつなぎ、大企業と投資先ベンチャー企業とのオープンイノベーションによる競争力の強化やビジネスの拡大を支援することにもかねてから力を注いできました。その取り組みのひとつがコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)です。近年様々な事業会社が自社の競争力強化にもつながる投資としてCVCに注目していますが、SBIインベストメントでは(株)ニコンや(株)SUBARU、ハウス食品グループ本社(株)など7社と、総額500億円規模のCVCファンドを設立・運用しています(2019年3月末時点)。

### 投資額および投資社数の推移



## 順調に拡大を続ける海外金融サービス事業

SBIグループのアセットマネジメント事業では、海外において多彩な金融サービス事業を展開しています。2013年3月に連結子会社化した韓国のSBI貯蓄銀行はリテールを中心に順調に正常債権を拡大し、債権全体の延滞率も2019年3月末時点で3.9%(リテール債権のみでは3.8%)と低位で推移しています。総資産75,101億ウォン、当期純利益1,310億ウォン(2018年12月期:韓国会計基準)の業績は、韓国における圧倒的な業界No.1の規模となっています。

ロシアの商業銀行であるSBI Bankも、2017年8月に完全子会社化して以降、ロシア現地企業への金融サービスを皮切りに法人事業を着実に広げ、業績を伸ばしています。2019年1月には、ロシアの政府系ファンドであるロシア直接投資基金(Russian Direct Investment Fund:RDIF)および、RDIF・JBIC IG Partnersが投資助言を行うRussia-Japan Investment Fundとの間で、SBI Bankへの共同投資に関する基本条件に合意したほか、レッドストーングループ(SBIホールディングスのロシアにおける戦略的パートナーであるイリエフグループによる新規事業群の総称ブランド)と共同で、(株)ラウンドワンのロシア進出に関して支援する基本合意書を締結しています。今後も現地の戦略パートナーと連携を加速させ、SBIグループが得意とするフィンテックを活用した顧客便益性の高い金融商品・サービスの提供や、ロシアと日本の中堅・中小企業を結ぶ事業を推進し、日露ビジネスの拡大を目指します。

成長性の高さを見据えた戦略投資先として2009年8月より出資しているベトナムのTP Bankも、2019年3月末時点の貸出金残高が4,000億円規模に達するなど成長基調を継続しています。時価総額も900億円超(2019年6月末時点)にまで増大しており、24時間365日営業の無人店舗における銀行サービスや、指紋認証による現金引き出しサービスなど新技術を積極的に取り入れることで、リテール業務を中心に事業を急拡大しています。

これらの成果を活かしつつ、SBIグループでは引き続き高成長を続けるアジア地域の金融業へ集中的に経営資源を投下していきます。

※ベンチャーキャピタル事業についてはP.20「担当役員メッセージ—投資事業を通じた地方創生」を、資産運用サービス事業についてはP.23「担当役員メッセージ—資産運用体制の拡充」を併せてご覧ください。